

高校生と地域が誇れる近代化産業遺産を磨き上げる 〜シビックプライドを胸に学びの絆を未来へつなぐ〜

愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部顧問 河野 義知



別子銅山の近代化産業遺産

四国屈指の工業都市である新居浜の生みの親が別子銅山です。別子銅山は1691年（元禄4年）住友によって開坑し、7年目には産銅量世界一を誇りました。江戸時代には御用銅として長崎貿易の決済に利用され、その4割が住友の生産した銅で、またその多くが別子銅山から産出されたものでした。1973年（昭和48年）に閉山し、283年間の歴史に幕を下ろしましたが、先人の知恵と努力の結晶は、近代化産業遺産としてその偉業を雄弁に私たちに語りかけています。

別子銅山との出逢い

1999年（平成11年）、ユネスコ部の前身である情報科学部が学校のホームページの中に地域情報として盛り込んだのが別子銅山でした。

別子銅山の発祥地である旧別子の紹介から始まり、産業や生活文化、さらには

環境問題解決の歴史をテーマに作成しました。

活動の中で、地域の宝である近代化産業遺産が次々と姿を消していく様子を当たりになりました。また、閉山後30年余りが経過し、当時を知る方も高齢化するなど、このままでは自分たちのまちなみや歴史が失われてしまうのではないかと危機感を持ちました。

ホームページでの発信は遠い地域の方には有効でしたが、肝心の地元での反応は少なく、課題を抱えていました。

そのような時、愛媛大学教育学部住居学研究室の曲田清維教授から、手に持てる紙媒体のガイドブックとす



ガイドブック

ることでの解決が図れるのではないかとアドバイスをいただきました。共同研究のなかで大学生とともに現地取材を重ね、約5年の歳月をかけ、2006年、「別子銅山八十八か所ふれあいめぐりあいガイドブック」を完成させました。

そしてこのガイドブックを郷土学習の教材として活用する取り組みを始めました。地元公民館での小学生まち探検、新居浜市教育委員会での別子銅山登山ワークキャンプ、新居浜市生涯学習センターでの生涯学習大学講座、さらには「とおきのおきの新居浜検定テキストブック」（新居浜商工会議所）、小学校5年生のふるさと学習資料（市教育委員会）にも採用されるなど、その活用は多岐に渡りました。

観光甲子園への挑戦

2009年、高校生による地元の観光プランを競うコンテスト「第1回観光甲子園」（神戸夙川学院大学）が開催されました。コンテストを通して別子銅山を全

国にアピールしようと挑戦しました。ところが、いざ取り組もうとする「観光」の意味さえも分かっていないことに気づき、まったくの基礎から学び始める必要がありました。そして、地元旅行者、新居浜市観光協会、NPO、行政などにもご協力いただき、試行錯誤の末、別子銅山300年の歴史を先人の想いととも近代化産業遺産を巡る観光プランを提案することができました。



観光甲子園記念写真

予選となる書類審査では全国から157プランの応募がありました。本選に出場できる10校に残り、大学でのプレゼンテーション審査に臨み、準グランプリを獲得することができました。しかし、あと一歩のところまで優勝できなかった悔しさの方が大きく、この悔しさをバネにしてプランの実現化を目指しました。

翌年には地域の方々にご協力いただき、モニターツアーを2回実施しました。コンテストから2年後の2011年、産業観光「あかがねの道スタディーツアー」として商品化に成功しました。「スタディー」にはツアー参加者とガイ

ド役の高校生が共に学び、共に高め合うという願いを込めています。

広報活動も苦勞しました。市政だよりや新聞、フリーペーパー、SNSなどを活用し、口コミにも助けられ、昨年まで280名余りの方にご参加いただきました。遠くは東京など県外からも集客がありました。

若き語り部たち



スタディーツアー

2012年、愛媛県東予地方局は、シビックプライド（ふるさとへの愛着や誇り）を持つ若き語り部たちを養成しようと「別子銅山Jrマイスター」をスタートさせました。現地研修やグループ学習などを受講し、認定審査を経て取得できる資格です。2014年に終了しましたが、翌年には「TOYO産業遺産ガイド養成講座」として発展し、この5年間で116名が認定されています。

2015年、新居浜市は「別子銅山Jrマイスター」を引継ぎ「別子銅山産業遺産塾」をスタートしました。市内の高校生がふるさとへの学びを深め、2年



小学校フィールドワーク



中学校出前授業

間で23名が認定されました。これらの成果は、観光ボランティアガイド、地域イベントでのPR、小中学校のふるさと学習の出前授業などに活かされ、学びの絆を広げています。

未来へつなぐ

2018年、本校において地域共創系列がスタートします。これまで、情報科学部からユネスコ部へと受け継いできた地域協働の成果を授業として学べる環境が整います。

高校生がシビックプライドを育みながら地域の方々と共に別子銅山の近代化産業遺産をさらに磨き上げ、その学びの絆を未来へつなごうと努めます。



別子銅山創造塾認定記念写真